



家庭訪問の思い出

大崎小学校校長

川邊 勝洋

遠き小学校時代の家庭訪問が、今でも印象に残っている。今から四十七、八年も前のことである。

当時の家庭訪問と言えば、どの家も決まったように、先生に「生菓子」（和菓子）を出していた。生菓子は、めつたに食べられない高価なものであった。子供心に先生が残してくれることを願ったものである。当時は

一クラス五十名以上で、先生も大変であった。時には、家庭訪問が夜になることもあった。
いよいよ今日は我が家の家庭訪問の日である。朝からそわそわした気分で、勉強どころではない。午前中で勉強が終わって、一目散で家に帰り、先生が来るのを今か、今かと待っていた。大分待つてから、遠くに先生の姿が見えた。母に気づかれないよう、裏からそつと床下にしゃがみこんだ。当時の家は、ほとんど、麦

わら」で床が高く、優に子どもはしゃがめた。にわとりも床下に飼っており、驚かせないよう神経を使ったのを覚えている。

自転車の「ブレーキ」の音が聞こえた。胸がどきどきしてきた。母が先生に丁寧なあいさつをしている。先生が学校での様子をいろいろ話して聞かされているのがよく聞こえた。

そうこうしているうちに、先生が帰りのあいさつをされた。その時、一緒にしゃがんでいた友だちが大きな「クシャミ」をしてしまった。慌てふためいて、裏口から飛び出して逃げた。当然のことながら、その晩は親からこつこつと叱られた。翌日、きつと先生にも厳しく叱られると思いながら、びくびくした気持ちで学校に行った。案の定、二人は理科室に呼ばれ、「おまえたちや、生菓子がほしかったるが」と言われ、ただ頭

を下げてじつとしていた。しばらくして、おそろおそろ頭をあげたら、先生の姿はそこにはなかった。

それから、十日程経った晴れた日、れんげが咲き乱れ、空には雲雀がさえずる川原に連れられていった。先生の自転車には、お菓子や生菓子が積まれ、皆で競い合ったあの味は、今でも忘れられない。先生が床下のことを言われないか心配していたが、そのことには、一言も触れられず、「陽の当たつとこいで食ふつとは、うんまかねえ」と言われた。その先生の言葉が理解できたのは、随分後になってからのことであった。

教師の仕事は、今子どもに指導すべきことと、大人になつてから気づく両面を持ち合わせておくことが大事だと思っている。まさに、流れ水に文字を刻むがごときものである。

広報クイズ

第八十三回

【当選者発表】

問題

大崎小学校運動会で五・六年生がおどつた曲は何だつたでしょう。

(正解)

二番 ソーラン節

多数の正解者の中から、抽選の結果、次の方が当選されました。

飯宿三四九番地

大脇 純子さん

菱田一三三八番地

中塚 信子さん

第八十四回

問題

今年の干支は何でしょう。



左から大脇さん、委員長、中塚さん

(応募方法)

ハガキに解答・住所・氏名電話番号をはっきり書いて、役場内議会事務局あてに送って下さい。(締切り)

平成十五年一月末日まで消印有効

正解者多数の場合は、抽選により若干名の方に記念品を差し上げますので、多数のご応募をお待ちしております。

編集後記

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

大変厳しい社会環境は私達の日常生活にいろいろと影響を与えております。昨年も改革の論議がなされましたが、景気回復の兆しは見えませんでした。

本町では、積極的な企業誘致や、町定期借地権分譲マンション事業の計画等、又住民の直接請求に基づく志布志・有明・大崎三町の法定合併協議会設置議案が昨年十二月議決され、一月三十一日に法定協議会の設置をすることが決まりました。今後合併について実のある協議がされるか。議会としても、子や孫のためにいかに夢のあるまちづくりを残していくのか、論議し、質の高いサービスができるよう頑張っていけます。ここに、議会だより八十六号をお届けします。紙面や議会に対する皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。